

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ⑬

『絵本スペシャルの魅力』

以前にも書きましたが、Eテレの『100分de名著』を楽しく視聴しています。3月は絵本スペシャルとして「百万回生きたねこ」「だれのせい？」「ぼくのこえがきこえますか」「おおきな木」を取り上げていました。絵本というところどもの読み物と思われるかもしれませんが、今一度手にとってほしいと思います。幼児でも、児童生徒でも、大学生でも、社会人でも十分楽しむことができます。ストーリーは単純かもしれませんが、物語に込めた意味は十分深いと思います。今回は私の大好きな絵本二冊を紹介します。

私が学校にいた頃、子どもたちに絵本の読み聞かせをしていました。その中でも一番得意で大好きだったのが『じごくのそうべえ』（たじまゆきひこ・桂米朝・地獄八景）です。絵も大好きですが、ストーリーにひかれます。軽業師のそうべえが屋根の綱渡りに失敗し、死んでしまいます。同じ頃あいに死んだ三人の仲間と助け合い、閻魔大王や地獄の鬼たち、そしてじんどんきを負かしてしまうという話です。最後に四人がそれぞれ息を吹き返して生き返るという落ちです。もともと上方落語ですので、関西弁の語りを楽しむこともできます。田島征彦さんの素敵な絵もこの絵本を楽しくしています。落語も聞いてみましたが、リズムのある軽快な演目となっています。読み聞かせをすると教室中が、笑い声ばかりとなります。

もう一冊の本は道徳の授業で取り上げてほしい絵本です。以前にも紹介したと思いますが、灰谷健次郎さんの『だれもしらない』という物語（絵本にもなっています）高学年の補欠授業をいただくとこの本で授業をやらせていただきました。まりこには障がいがあり歩くのも困難です。200歩を40分かけて歩きます。小さい時の病気がもとで、筋肉の力がなく、しゃべるのも正確な発音ができないこどもです。まりこの歩く姿を見て、世間の人には同情したり、陰口を言ったりします。でもまりこには障がいがあるからこそ見えるものがあるのです。心で真実を見抜くということでしょうか。彼女を見ていると彼女から励まされることがありますが、私たちはそのことに気づいていない人が多いようです。多様な社会に生きる、何が正しいか不透明な時代に生きる私たちの指針となる絵本です。

津島の図書館には多くの絵本があります。一度手にとっていただき、絵本を楽しんでほしいと思います。

令和8年4月1日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視